

市長から 市民のみなさんへ 48



山陽小野田市長 白井 博文

市内観光してみませんか

月に2回、小野田地区と山陽地区の自治会に交互にお邪魔し、市民のみなさんと市政について語り合う「対話の日」。お陰さまで、各会場とも、多くの方にご来場いただき、市役所の中には決して知りえなかったであろう市民のみなさんの“生の声”をおうかがいする貴重な場となっています。

しかし、最近、その会場でみなさんとお話ししながら、少し気になっていることがあります。それは、小野田地区、山陽地区の方とも、互いがどのようなまちなのかあまりご存知ないということです。合併してすでに2年が経過し、各種団体等の統合はかなりすすんでいます。肝心の市民同士の交流がまだまだ不足しているのではないかと感じるのです。

市内には平安時代の歌人、和泉式部の墓や幕末の志士、来嶋又兵衛生誕の地など史跡も数多くあります。これから気候も良くなってきますので、遠出を予定されている方もいらっしゃると思いますが、まずはふるさと探訪，“山陽小野田再発見の旅”にお出かけになってみてはいかがでしょうか。

なお、市でも市民活動推進課(☎82-1134)で、“市内施設めぐり”という事業を行っています。市のマイクロバスを利用し、名所や公共施設見学などご要望に応じて市内を巡ります。ぜひ、自治会や団体単位でお申し込みいただき、市民交流を深めるきっかけに



▲市内施設めぐりのようす（消防署にて）

対話の日 ※いずれの会場も19:00から



5月10日(木) 梶沖開作自治会館
5月24日(木) 刈屋自治会館
6月14日(木) 永安台公会堂

けにさせていただければと思います。

高齢者・障がい者に優しい取組みを

これも対話の日に関係しての話ですが、先日、ある会場で膝が悪いお年寄りの方が公共施設の和式トイレでご苦労されているというお話をおうかがいしました。

「財政難のため、申し訳ありませんが、洋式トイレへの改修を行う費用はご用意できません」とお話ししたところ、その方から「和式トイレの上に設置し、膝を曲げなくても使用できる簡易トイレなら安価で代用がきくのでは」と教えていただきました。障がいをお持ちの児童の親御さんからも、同様の要望をいただいているところでしたので、この件に関しては前向きに検討し、すべての施設について改善を図っていきたくと考えております。

一人暮らしのお年寄りの方から、「施設に入所するので空き家になるわが家をどうしたらいいのか知恵を貸してもらいたい」という切実なお話もおうかがいしました。私が思っている以上に高齢化社会がすすみ、数々の問題が起こっています。財政難ではありませんが、市としてできる手を打っていかねばと意識しているところです。

終わりにになりましたが、5月27日に文化会館で、NHK衛星放送の番組「行くよ！後輩 ほいきた！先輩」の公開録画が行われます。新番組なので、詳しい内容はまだ存じていませんが、ステージ上では職場の先輩後輩の微笑ましい、また抱腹絶倒のやりとりが行われることでしょう。まだ若干、入場整理券（無料）に余裕があるようですので、ぜひともご家族連れでご来場していただければと思います。（問い合わせは社会教育課☎82-1204まで）